

(国)150号(御前崎市内)の4車線化整備における創意工夫と安全対策

袋井地区
株式会社 大浜中村組

工事課 スズキ シュウタ
鈴木 秀太

1. はじめに

本工事は、御前崎市が主体で整備を進めている道の駅「風のマルシェ御前崎」が平成26年4月5日に開駅予定であり、これに合わせた150号4車線化工事(一部区間)です。



2. 工事概要

工事名 : 平成25年度 [第25-D3051-01号](国)150号
原子力発電所関連道路整備事業工事(舗装工その2)

工事箇所 : 御前崎市 塩原新田 地内

工期 : 平成25年12月20日～平成26年3月26日

発注者 : 静岡県袋井土木事務所

工事内容 : 舗装工 L=216m
中央分離帯A型 L=51m
中央分離帯B型 L=60m
中央分離帯C型 L=40m
中央分離帯D型 L=31m
中央分離帯F型 1箇所
上層路盤工・瀝青安定処理 1950㎡
基層・粗粒度As(20) 3400㎡
表層・密粒度改質Ⅱ 3400㎡
透水性アスファルト舗装工 1220㎡
視覚障害者誘導ブロック 445枚

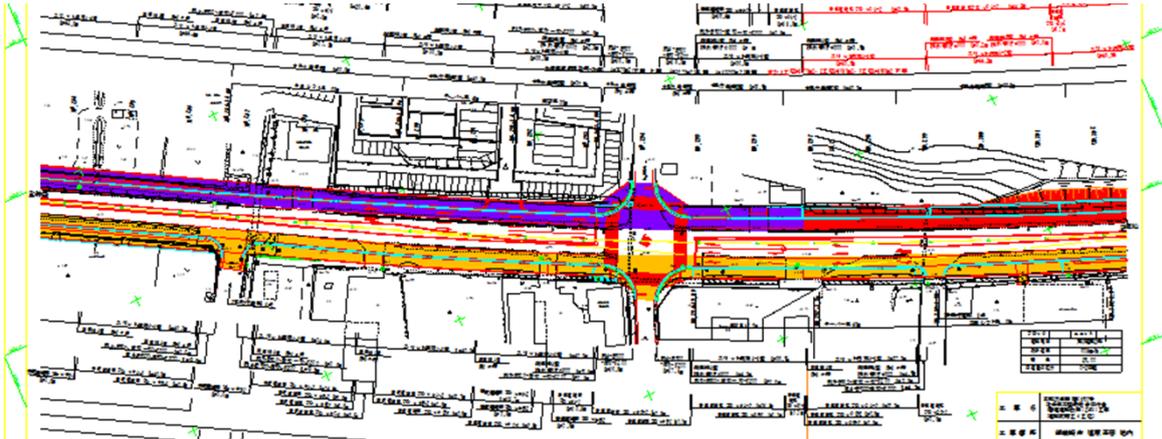


3. 本工事について

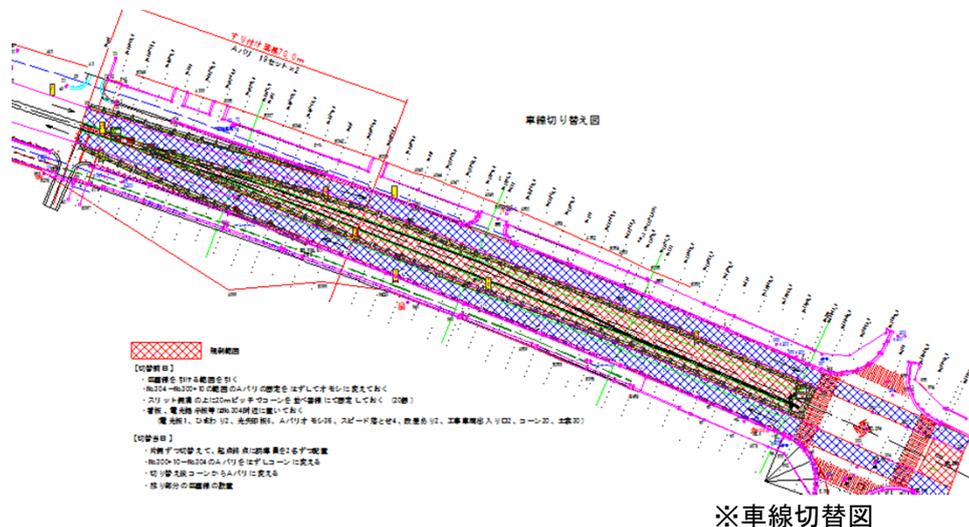
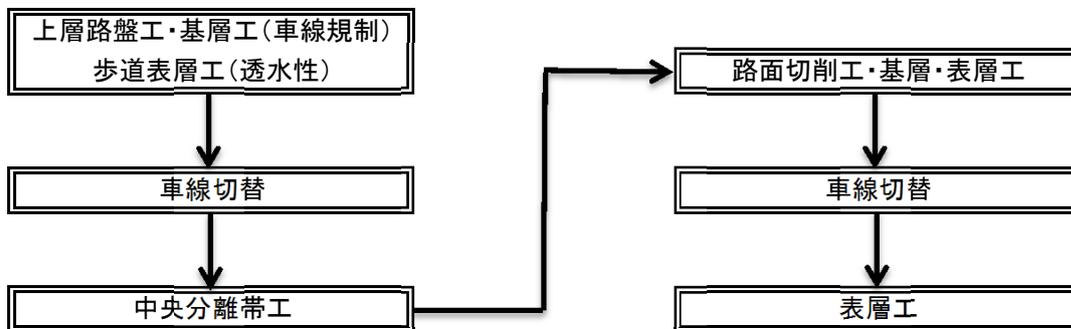
本工事は(国)150号4車線化工事です。今期工事は全延長約800mあり、8件の工事が同時に施工される為、請負8社が連携し工程打ち合わせ等、密にとることを必要とした。

また、これに合わせ「風のマルシェ御前崎」も施工しており、工事車両の出入りをようする交差点も施工範囲に入っており、様々な制約のもと工事を進めなければならなかった。

中央分離帯帯においては3工区に分かれており、車線規制においては3社同時規制を必要とした。



4. 施工工程

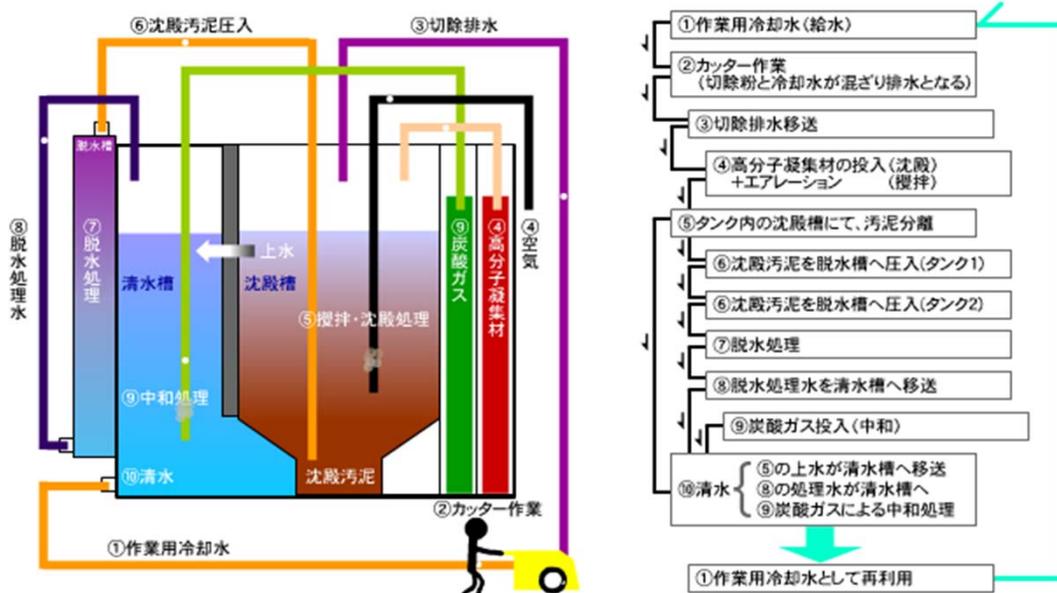


5. 現場における創意工夫

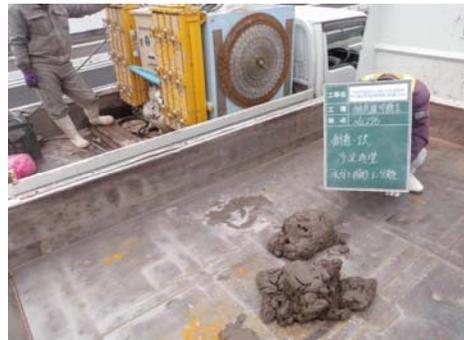
中央分離帯施工において舗装版切断、約350mを新工法のウォーターリサイクル工法を使用した。ウォーターリサイクル工法とは、コンクリートやアスファルト舗装等の舗装版切断において発生する、汚泥排水を車載した装置にて、現場で作業をしながら脱水・再生処理を行い排水を再利用可能な状態にする技術である。

処理された排水は工事で再利用したり放流基準値内のpHと濁度になるので河川や池などを汚泥で汚す事無く放流ができる環境にやさしい工法である。

これにより環境に配慮し汚泥を冷却水とし水を再利用することができた。



泥水の回収状況



分離された固形分

6. 安全対策…交通事故

路線が国道150号で交通量が10000台以上と多く、また夜間は交通量が減り、多くの車がスピードをだすため、車線切替えをした日に規制範囲に車が突っ込む可能性があった。

そのため、単管バリケードにつける赤色灯は通常よりも多く設置し、電光掲示板、光矢印板等多くの安全施設の設置を行った。

また、夜間パトロールを頻繁に行い、現場の明るさや安全度の確認を何度も行った。夜間のスピードを落とさせる為、あえて車線の幅を狭くし走りにくくする工夫も行いました。

また、スリット側溝の上にもコーンと赤色灯を配置し、事故防止を起こった。

しかし昼間施工中の規制範囲へ1台車に突っ込まれてしまいました。幸いケガ人等もなく交通事故で処理されましたが、一步間違えれば大惨事になるところでした。

この時、もう一度安全対策についてみなおしを行いました。やるべきことはすべてやったという思い込みがこの交通事故につながってしまったのかもしれない。

社内の安全会議でこの事故報告を行い他の社員からも様々な意見をもらいました。

さらに安全をみなおしたうえで、夜間の現場の赤色灯等の明るさ等は十分すぎるくらい明るく、事故が起きたのは昼間で運転手のよそ見による事故であった為、単管バリケードには、回転する反射板をさらに設置し、高輝度の看板を増やし「わき見注意」等の通常の看板ではない文章の工事看板を設置し、一般車両の安全意識の向上、昼間の交通事故対策を行った。

結果この交通事故のあとは安全に事故を起こすことなく、現場を終えることができました。



7. おわりに

なんとか工期に間に合わせることができたのも、他の業者さんたちの協力や工程管理、打ち合わせ等の連携がうまくいったからだと思います。

今回の工事で協議会の重要さや安全管理の見直しなど日々勉強だとあらためて、実感しました。地元のみなさんにも、にもご協力いただきありがとうございました。

